

山梨県ヤングケアラー支援計画について

令和4年12月



計画の構成

全5章により構成(1 計画概要、2 ヤングケアラーを取り巻く環境、3 計画理念、4 施策体系・展開、5 計画の進捗管理)

1 計画概要

- 計画策定の趣旨: やまなし子ども条例制定を受け、ガイドラインで示した支援の在り方を含むヤングケアラー支援の方向性を具現化していく計画とする。
- ヤングケアラーの定義: 本計画で支援するヤングケアラーを、次のとおり定義(誰が見てもわかりやすいよう、右図ともに掲載)**
本来大人が担うとされる家事や家族の世話などを日常的に行うことで、子ども自身の権利が守られていない子ども※ ※「子ども」とは「18歳に達する日以後の最初の3月31日までにいる子ども」
【参考】日本政府が批准した「子どもの権利条約」では、生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利の原則のもと、子どもにとって、最善の利益を考慮することが求められている。
- 計画の性格と位置づけ: やまなし子ども条例 第22条に基づく推進計画及び第2期やまなし子ども・子育てプランの関連計画(今年度中間見直し)として策定
- 計画期間: 令和4年度～令和6年度(3年間)



2 ヤングケアラーを取り巻く環境

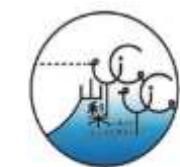
- 山梨県内の人口等(子ども・人口の推移、ケアを必要とする人等の状況)、山梨県内のヤングケアラーの状況(R3, 4の実態調査結果)、実態調査から見たヤングケアラーの課題により整理
ヤングケアラーの認知度 R3からR4にかけて大幅増加 子ども:55.4%(R3:15.3%)、一般県民・保護者:約6～8割
ヤングケアラーの捉え方 支援対象となる子ども※ 3.6%(およそ28人に1人) ※自らヤングケアラーに該当と回答した子ども 0.8%、「ヤングケアラー」と思われる子ども 2.8%

3 計画理念

- 基本理念: 子どもが主体であり、わかりやすいことを主眼とし、リード文にキャッチフレーズとロゴで補足して整理

すべての子どもが夢に向かって挑戦できる やまなし ～ 気づいてつながろう山梨コネクトヤングケアラー ～

- 基本的な視点: 子どもの育つ権利を守る視点、子どもや家族の意思を大切にす視点、子ども本人と家族を社会全体で支える視点



山梨コネクトヤングケアラー
(Yamanashi Connect Young Care)の
YCYCをキャラクターのように見立て、子どもや
人とのつながりを探求したロゴマーク

4 施策体系・展開

- 基本理念、基本的な視点に基づき、4つの体系に整理し、施策を展開し、各施策にKPIを設定。また、SDGs の理念に基づき、特に子どもに深く関連する目標に対応する施策を整理。



◆ 施策1:ヤングケアラーへの理解の促進

子ども本人や家族の他、学校関係者や専門職のみならず、地域住民をはじめとする県民全体が、「ヤングケアラー」への理解を促進

【主な取組】・YouTube、Tiktok テレビ等の活用による、さまざまな年代へ伝える広報の充実

・子どもへの啓発事業の展開(学校訪問事業) ・保護者や地域住民への啓発の充実

主なKPI ヤングケアラー認知度の向上 目標(R6) 80%(※子ども、一般県民共通)
子ども R3 15.3% R4 55.4% 一般県民 R4 70.8%

◆ 施策3:ヤングケアラー本人への支援の充実

子ども本人の意思を尊重し、寄り添いながら、さまざまな面からサポートできる体制づくり

【主な取組】・電話やSNS等、さまざまな媒体を利用した相談窓口の充実

・民間を活用した居場所支援の充実 ・ピアサポートによる支援 ・伴走支援の検討

・レスパイトサービスの導入に向けた検討 ・子どもの権利擁護の推進

主なKPI ヤングケアラー※の生活満足度の向上 R4 5.3点 目標(R6) 7.3点(10点満点)

※ヤングケアラー及び「ヤングケアラー」と思われる子ども

◆ 施策2:ヤングケアラーを支援する人材育成・研修体制の充実

直接支援を行う専門職等の研修体制を充実させていくとともに、地域住民等に対する研修等を図り、幅広く支援者を育成

【主な取組】・ヤングケアラー・コーディネーターの養成 ・学校職員や専門職の研修体制充実

・ヤングケアラー支援ガイドラインの充実 ・出張講座等、地域住民等への研修の充実

主なKPI ヤングケアラー・コーディネーターの増加 研修受講者数 目標(R6) 60名(累計)

◆ 施策4:福祉サービスの充実や支援者のネットワークづくりを含めた支援体制の構築強化

ケアを必要とする家族やそれを支える家族全体を支援できるよう、連携した取組により、切れ目のない重層的な支援体制を構築

【主な取組】・ヤングケアラー・コーディネーター、支援アドバイザーの配置

・支援ネットワーク会議の開催

・介護や障害、子育て等の福祉サービスの充実

・多職種が集える場づくり

・通訳支援の検討

主なKPI ヤングケアラー・コーディネーターがさまざまな機関等をつなぐ事例の増加
事例をつないだ子どもの数 目標(R6) 690人(累計)

5 計画の進捗管理

- 計画の進捗管理、推進体制を掲載 ヤングケアラー支援ネットワーク会議への報告、県民一体となった推進、国や市町村との連携、全庁的な推進体制の確保